



「心を開いて相手に近づく」……「挨拶(あいさつ)」

私(校長)は、長年生きてきてみて「あいさつができるかできないかで、その人の人生が変わるのではないか。」とまで思っています。たかが「あいさつ」ですが、あなどれないパワーを持っているのも「あいさつ」です。これからの時代を生きていく子どもたちに、この思いを伝えようと5月31日(金)の全校集会で以下のようなお話をしました。一部を掲載させていただきます。

今日はみんなが幸せになる魔法の言葉を教えます。

これが使えるようになると「家族」も「学校」も「会社」でも、そして、みんなが住んでいる「日本」中が、今よりも少しでも幸せになると思います。

その言葉とは「挨拶」です。「おはよう」「こんにちは」「おやすみ」「ありがとうございます」「ごちそうさま」などの言葉です。「えっー」そんなものかと思うかもしれません。こんな簡単なものなのですが、実はとってもとっても大切なものであり、すごいパワーがあります。

今、世の中を見ているといろんなことが起きています。「人のことを信じられずに相手とトラブルを起こした事件」「原因は些細(ささい)なことなのに、お互いがいがみ合って相手を傷つけたり殺(あや)めたりしてしまった事件」「家族のなかでの不幸な事件」ちょっと信じられないことがたくさん起こっています。

少し前は「人間と人間がもっと近い存在」だったのに、「人間と人間」が、だんだん離れていってしまっている感じがします。友達関係でも「あの人と友達になりたいと思っているのになかなかうまくいかない」ことや、嫌われているわけじゃないのに相手は自分のことを嫌いなんじゃないかと思ってうまくいかなかったり、人と人の関係って難しいことが多いですね。【この後、例を2つ紹介しました。ここでは省略。】

「あいさつ」という魔法の言葉は、漢字だと「挨拶」と書きます。元々は「禅宗」の言葉から来ています。禅宗では、「挨」も「拶」も「押し合う」という意味があります。また、「挨」は「開く」、「拶」は「迫る」という意味があります。すなわち、「挨拶」は「心を開いて相手に近づく」ということなのです。みんなの中には、「あいさつはちょっと恥ずかしいな」とか「相手の人があいさつをしてきたら自分も言おう」などと思っている人もいます。あいさつは「慣れ」です。あいさつをすることが特別なことでなく、自然に当たり前のようにできるようになることが大切なのです。

あいさつは「いつでも、どこでも、誰にでも」できるようになるといいなと思っています。「自分の担任の先生だけでなく隣のクラスの先生」にも、また、「自分のうちのお父さんやお母さんだけでなく、近くに住んでいるおじさんやおばさん」にも、集団登校の時にお世話をしてくださっている方たちにも、あいさつができるようになってください。

桜小学校の子どもたちには、あいさつが当たり前のようにできるようになって、しかも、すてきなあいさつ(表情豊かに、感情込めて)ができるような「あいさつ名人」になり「幸せ」になってほしいと思っています。

日本に来ていろんな家庭にホームステイをしたある外国の人の話を思い出しました。「僕たちの国では朝起きたらみんなにおはようと元気よくあいさつし合うのが当たり前のなのに、どうして日本人ってあいさつをしないのですか？ととてもとても不思議です。」と言っていたそうです。この国、この人の家庭では「あいさつ」し合うのが当たり前のことなのです。朝起きたら、「親子」「夫婦」「兄弟姉妹」が「おはよう」と声かけ合う所から一日が始まるのだと思います。

あいさつについては、考えさせられることがたくさんあります。でも、桜小学校の子どもたちは、あいさつが上手にできるほうだと思います。桜小学校の子どもたちがあいさつ上手なのは、各ご家庭できちんと教えていただいているからかなとも思っています。しかし、一人ひとりの子どもたちの「幸せ」、そして所属する家庭や社会全体の「幸せ」のためにも、もっともっと上手になってほしい、小さいときからあいさつを習慣化して、あいさつが特別なことでなく自然に出てくる子どもになってほしいと思っています。是非、各ご家庭でも「あいさつ」について、話し合いの時間をとっていただければ嬉しいです。

